

予算決算特別委員会審査報告書

1 審査期日及び場所

令和元年7月18日（木）、19日（金） 全員協議会室

2 出席委員

斉藤新緑委員長 外35名

3 付議事件審査の概要

本委員会は、付議事件である「一般会計、特別会計および事業会計の予算に係る議案に関すること」、「県財政の運営上および県政上の重要な案件」について審査を行った。

その審査の過程において、各委員より論及のあった主な内容は、次のとおりである。

(1) 福井県長期ビジョンについて

長期ビジョンについて、県民と共有でき実効性あるビジョンにするため、主観的・客観的視点から将来への不安や希望あるいは多様化する地域の課題や魅力を洗い出す必要がある、そのために、U・Iターン者や性的マイノリティー、中高校生等、多様な県民との意見交換の機会を設けるべきではないか、との質問に対し、「長期ビジョンの策定に当たっては、できるだけ丁寧に多くの県民の意見を聞きたい。ワークショップ形式での世代別意見交換会や、県民アンケート、ホームページ等での策定過程の公開と意見の受け付け等、9月議会に向け集中的に意見を聞く。その後も聞き取り等を行い、時間をかけ多様な意見を集約していきたい」との見解が示された。

また、スケジュールありきではなく議論の進捗状況を見ながら成案化を図ってはどうか、との質問に対し、「プロセスの中で将来像を共有することが大切であるので、案を作る作業は早めに行うが、出来上がりについては時期にこだわることなく、毎議会、議論いただき、方向性が出たところで取りまとめていきたい」との見解が示された。

(2) 恐竜博物館について

収蔵庫やショップ、レストランの拡大、屋内発掘体験スペースの新設を含む恐竜博物館の増改築の方針が示されたことについて、議会に対し最終報告だけでなく局面局面における検討状況の説明を求めた。また、今後の議会への説明のスケジュール感について質問したのに対し、「今議会での調査事業の議決後、速やかに検討に着手し、9月定例会には検討状況を中間報告、12月定例会には必要な機能や規模、概算事業費を説明、来年2月定例会には配置計画案や外観イメージなどを含む最終的な説明を行う」との見解が示された。

(3) 県立大学の新学部について

地域リーダーは人の中でもまれて育まれるものと考え、県立大学で行う「次世代の地域リーダーを養成する新学部」に関し、大学で地域リーダーが育つと考えているのか、との質問に対し、「大学で机上の学問を学ぶだけではなく、学生自らが様々な課題解決に主体的に取り組むために、地域づくりへの参加、地元企業へのインターンシップなど実践を重視し、福井を担っていくという熱い志を持った人材を育成していく」との見解が示された。

(4) 嶺南地域の医療充実について

嶺南の病院は医師不足で救急搬送された際に治療ができない場合もあり、患者を嶺北の病院へ搬送している。嶺南地域から生まれる財源は多く、嶺南の救急医療充実のため、ドクターヘリの基地病院を嶺南に設置することを検討してはどうか、との質問に対し、「嶺南

は京滋ドクターヘリで重層的にカバーする。救急医療を受けられる体制をつくるのが大切であり、ドクタープールを活用し、中核的な病院に専門医を派遣し、嶺南地域の救急医療を進めていきたい。ドクターヘリについては全県的な視野で配備を考えている」との見解が示された。この見解を受け、ドクターヘリの運用方法やドクタープールで嶺南に医師の派遣をしっかりとすることは理解するが、ドクターヘリの基地病院になれば医師数などの体制は長期間続くが、医師の派遣では長期的に確保されるのか、ドクターヘリは救急医療充実の手段であり、県内の医療格差に目を向けてほしいとの要望が述べられた。

(5) 新幹線開業に向けての観光誘客

北陸新幹線敦賀開業の効果を最大限に発揮するためには、福井を目的に来ていただける観光の目玉が必要であると考えますがどうか、との質問に対し、「恐竜博物館、一乗谷朝倉氏遺跡などをしっかり磨き上げ、県外の方に認識していただき、そこを目的に福井に来ていただけるよう市町と協働し対応していきたい」との見解が示された。

また、新たに整備する一乗谷朝倉氏遺跡博物館を観光客が満足し魅力ある施設にするためにも、市と連携し体験型観光の掘り起こしや、VR等最新技術を活用するべきとの質問に対し、「博物館開館に向けては戦国時代を体感できるプログラムを充実させるとともに、VR等新技術についても福井市とともに研究し導入を検討したい」との見解が示された。

(6) 人口減少対策について

3人っ子政策を肉付けし、子供を出産したらお金を給付することで出生数を増やし、人口増加につなげてはどうか、との質問に対し、「出生率改善には全力で取り組むが、自然減を一気に解消すること、社会減をゼロにすることは厳しい。子育てにお金がかかりすぎ、手間がかかることを取り除かないと安心した子育てができないため、子育てにお金がかかる6歳までの時期に、受け皿とお金の面から、安心して子育てしてもらう環境を作ること人口減少対策戦略や子ども・子育て支援計画の中で考えていきたい」との見解が示された。

(7) 教育現場の業務改善について

若狭町立中学校の新任教諭の自殺に関し、今後の教育姿勢をただしたのに対し、「月内に県内の市町教育長や小中学校長、県立学校長を集めた会議を開き、今後の学校における労働環境の改善について話し合いを行う。また、管理職を中心に、チームの中で児童生徒を育てる体制を作っていく必要がある。本年度策定する県教育大綱には、教員が子どもと向き合う時間を確保する重要性を位置づける」との見解が示された。

このほか、北陸新幹線整備、高齢者の移動手段の確保、嶺南振興局の機能強化、防災・減災、障害者雇用、児童養護、保育士不足、移住定住・交流人口、豚コレラ、林業、働き方改革など広範多岐にわたり、それぞれ理事者の見解と対応をただした。

以上のとおり、中間報告する。

令和元年7月25日

福井県議会議長

田中宏典様

予算決算特別委員会

委員長 斉藤新緑